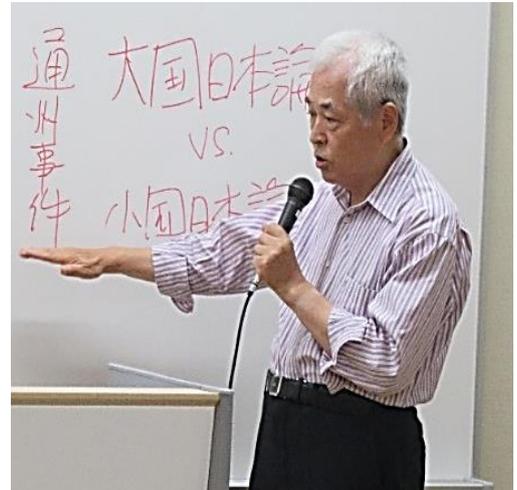


今回は、図書館友の会の「再発見教室」などで何回も講師をしていただいている横山篤夫先生からの寄稿文を紹介します。

横山先生は元岸和田高校教諭。泉州地域における戦時下の歴史なども深く調査・研究され『岸和田高等学校の第一世紀』や『岸和田市史』第4巻の編集・執筆もされています。そこで、第1次世界大戦の頃に猛威をふるった「スペイン風邪」のことを中心に書いていただきました。



歴史研究家 横山 篤夫 氏

100 年前に世界を襲った感染症「スペイン風邪」は

岸和田でも猛威を振るった

今世界は、新型コロナウイルスの感染拡大で将来が見通し難い状態になっています。しかしちょうど 100 年前にも、世界はウイルスによる感染症で大変な状態になっていました。岸和田でも相当の死者が出たと聞いたことがあります。そこから生き残ったのが今の人類だと言われています。その時、大阪や岸和田ではどうだったのか、どう克服したのかを岸和田の図書館で調べてご報告しようと試みた概要を以下に書いてみたいと思いました。

(1) 日本でも 3 回の感染の波が(1918～1921)

100 年前に猛威を振るった感染症は、「スペイン風邪」といわれていました。しかしこの新型ウイルスは、第一次世界大戦の最中に各国に広がり、敵国に自国の若者が多数倒れていることを隠したため諸国に拡大し、中立国であったスペインが新型ウイルスによる風邪の流行を発表したため、こんな名前と呼ばれていたそうです。

発生地は不詳ですが、致死率が高く第一次世界大戦の死者数 1,400 万人を遥かに超えたともいわれています。まさに人類の脅威であったわけです。総死者数は 1,700 万人から 1 億人説までありますが、戦時中は各国とも被害を隠したため、正確には分からないようです。当時の世界の人口約 20 億人の 4 分の 1 に該当する 5000 万人が感染したといわれています。

なぜ克服できたのかは諸説あり、定説は無いようです。懸命にワクチンの開発がすすめられましたができませんでした。ではなぜ終息したかについての有力な説の一つは、生き残った人々に抗体ができて集団免疫が形成されて終息したということです。そのため 1918 年から 1921 年までパンデミックが続いたようです。世界では何回かの波があったそうですが、

日本では大きくは3回の波がありました。

第一波：1918年8月～1919年7月

第二波：1919年8月～1920年7月

第三波：1920年8月～1921年7月

筆者は以前岸和田高校に勤めていた時、『岸和田高等学校の第一世紀』という百年史の編纂を手伝ったことがありました。そのなかでこの「スペイン風邪」流行の時に、旧制岸和田中学校で教職員・生徒に多くの感染者が出て死者も相当あったことを知ったことから、岸和田地域全体でも相当の流行があったのではないかとということが前から気になっていました。7月30日、少しまとめて調べようと地域の資料をよく集めていると評価の高い岸和田市立図書館(本館)に向かいました。

(2) コロナ禍に岸和田市立図書館へ出向いて調査

後で思えば認識不足でしたが、新型コロナウイルス対策として、岸和田市立図書館では「在館時間は30分にしてください」ということになっていました。入り口の掲示を見て、これではあまり調べられないな、でも混んでなければ多少大目に見てもらえるか、などと思いながら2階に行きました。

先ず泉州地方のスペイン風邪流行の全体状況を知るため、1919年1～3月の大阪版の新聞の縮刷版を見せてくださいと申し出ました。司書さんはネットで検索して、「本館で縮刷版を所蔵しているのは昭和3年(1928)から後です。」とのことで、この方面から調べるのはだめだと考え、岸和田の教育関係の図書を調べ始めました。

ところが司書さんは所蔵資料に関連するものがないか調べて、『朝日新聞に見る日本の歩み・第三編 屈折のデモクラシー(大正8年～10年)』(朝日新聞社、1975年)を持ってきて、「この中で使えるものがありますか」と見せてくださいました。この中に収められていた『大阪朝日新聞』は少数でしたが、その中に当時のスペイン風邪が大阪でも猛威を振っていたことを示す記事が掲載されているのが2頁あり、全国の動向も多少はわかる記事もあり、とても助かりました。早速コピーをお願いしました。

1920年(大正9)1月14日『大阪朝日新聞』7面には「大阪師団 流感の経過 面会一切禁止」の見出しで以下の記事でした。

陸軍省警務局の調査に依れば、本年三月現在陸軍部内に於ける流行性感冒の罹病者は一万一千九百四十一人にして内死亡者五百四十七人を算し、患者数の最も多きは東京にして近衛師団は四百六十人、第一師団は百十五名を出せり。(句読点を補足した)

これに続いて大阪の軍隊内での様子について次のように報じています。

大阪師団管下に於いても最初に輜重兵冒され、次に騎兵隊に移り、現に歩兵第三十七連隊に於て猖獗を極めつゝあり。同聯隊は十三日現在入院患者百十名、医務室に於て休養中のもの約二十名を算し、数日来兵卒の外出を禁止中なりしが、十三日更に外来者の面会を一切禁止する旨諭達せり。……歩兵第八聯隊は目下の所非常に好成績にて、感冒罹病の低き事、我国第一位にあり。十三日現在入院患者は十八名、発病者五名に過ぎず。……

部隊ごとに感染者数に差があったようですが、やがて全体に広がっていきました。その途

中の経過が報道されています。

もう一頁は『大阪朝日新聞』1920年（大正9）1月17日付2面でした。ここには6件の記事が載っていて、スペイン風邪が大きな社会問題になっていたことが示されています。この6件の記事のタイトルと、何段で取り上げていたかを〈 〉内に数字で示しました。

- ① 「^{りゅうかん}流感予防注射からの^{たんどく}変事件 丹毒病者の針の消毒の不完全が原因か」〈6〉
- ② 「安全なワクチン製造と完全な注射には ^{ぜ ひ これ}是非是だけの手順が要る」〈2〉
- ③ 「^{ついで}京都遂に一斉休校 中学校以下幼稚園迄^{まで}挙つて 十日で終息せねば更^{さら}に十日」〈2〉
- ④ 「^{ますく}口覆を掛けた人々（十六日の大阪市中）」〈写真四葉4段〉
- ⑤ 「池田侯重体 ^{りゅうかん}流感から肺炎」〈2〉
- ⑥ 「マスク日（デー）を開催 府衛生課で五万個急増」〈2〉

このうち、③と⑥の記事を紹介し④を引用します。③は学校が府県単位で一斉休した措置が当時も取られていたことを示しています。

京都市にては、中等学校小学校幼稚園の生徒・児童の流行性感冒に冒さるゝ者続出せるより、十六日府知事の認可を得て、一斉に十七日より二十六日迄臨時休業することに決せるが、十日間にて尚終息を見ざる時は更に向ふ十日間休業の予定なりと。

「口覆器」に「マスク」とルビを振る記事が⑥である。

大阪府衛生課にては^{ますく}口覆器の使用宣伝と同時に、其の製造を急ぎ居り、十六日中には五万個を完成する筈にて、其の外に大阪府人ホーム等に依頼して婦人の手によりて^{ますく}口覆器を出来得限り多数に製し「花の日」の花の売出しの如く^{とくし}篤志なる夫人の手によつて^{こうがいつじつし}巷街辻々に於て、実費を以て販売することの一法たるを考へ、十六日各婦人会、徳風小学校等に対し交渉するところあり、数日中には「口覆器日（マスクデー）」の実現を見るに至るべし。



現代もマスクの着用を盛んに訴えるが、100年前のスペイン風邪ですでに防御法として盛んに奨励されていたことを伝えています。図④はかなり着用されだしていたことを写真で伝

えています。

大阪全体の状況がかなり緊迫していたことを伝える記事ですが、泉州・岸和田の様子が気になります。

(3) 旧制岸和田中学校の現職教員 4 人、生徒 13 人が死亡

『岸和田高等学校の第一世紀』の通史編 201～204 頁に「スペイン風邪」の一項目が立ててあり、具体的な様子を伝える記述があります。岸和田市立図書館(本館)参考資料室には、開架の書棚にありますから直接手に取ってご覧になれます。

1919 年 2 月、3 月に旧製の府立岸和田中学校の現職教員が 4 人、次々にスペイン風邪に罹り肺炎を併発して亡くなりました。この時最初の亡くなった先生の葬儀に参加した、当時 1 年生だった佐々木勇三は感冒に罹り家族の必死の看護で生還したが、一緒に参列して寒そうにしていた佐々木の担任の先生は感冒で間もなく亡くなったと伝えられています。後に泉州銀行の創設に関わった佐々木勇三もスペイン風邪に罹っていたという証言が引用されています。生と死は紙一重であったと述べています。生徒も 13 人亡くなっていました。

ということは泉州一帯から来ていた中学生が相当感冒に罹っていたということで、岸和田をはじめ泉州一帯に相当な感染者が出ていたことが推定されます。

その具体的な様子を小学校の百年史や、企業史、社史などで調べようと思っていました。先ず、岸和田小学校の全体像に詳しい佐納秀雄『岸和田小学校史』(1965 年)を調べ始めました。すると司書の方から「入館から 30 分経ちました。今日はここまでにしてください」と注意を受けました。参考資料室にはその時私一人でしたから、「もう少し調べて終わります」と答えて佐納さんの本の頁を追いました。

佐納さんは岸和田小学校に長く勤め、教育委員会にもおられた生き字引のような方ですが、この本にはスペイン風邪の記述はありませんでした。そこに再び司書さんが注意に見え、結局 40 分くらいで荷物をまとめて引き上げました。コロナの感染を防ぐための注意を一生懸命している司書さんのお気持ちも考え、でも私一人しかいないので「三密」にもなっていないのに、とやや心残りの感じも引きずりながらの退出でした。

その空気を感じられてか、2 階から 1 階の入り口近くまで追いかけてきて、「感染防止のためですが、30 分では調べられないという方は、図書を借りて自習室で調べる方法もあります」と教えていただきました。

皆さんも調べてみませんか

ご親切に感謝して帰りながら、私が全部調べてご報告するのも一つのやり方だが、このペーパーをご覧になって興味・関心を持たれた方がおられたら、1918～21 年頃の学校史や社史を岸和田市立図書館(本館)の参考資料室でお調べになって、当時の岸和田・泉州地方のことをお調べいただき、みんなで明らかにするというのもいいのではないかと、思いました。

ということで小論は中途ですが、一応これでご報告にしたいと思います。

発行 2020.9.1.